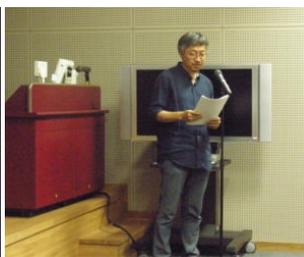


【早稲田大学教育学部複合文化学科 / 早稲田大学メディア・シティズンシップ研究所 様】

上映日: 2015/ 7/11(土)  
場 所: 早稲田大学早稲田キャンパス



**ラジオ**  
東日本震災との  
関係を問い直す

7月11日(土)  
15:00-19:00  
早稲田大学 早稲田キャンパス  
26号館B1 多目的講義室  
\*入場無料/途中入場歓迎

2011年3月11日、午後2時46分。  
宮城県・東三陸町を舞台にした映画『ガレキとラジオ』の上映と、  
震災追悼行事から、福島県立、国立の大学等の11カ所に対して  
福島の現状を伝え続けている大和田新氏の講演。  
3.11から4年目となるこの日、いよいよラジオの在り方を問い直します。

期日: 7月11日(土)  
会場: 早稲田大学 早稲田キャンパス 26号館B1 多目的講義室  
(http://www.waseda.jp/top/courses/waseda/campus/)

～第1部～ 映画『ガレキとラジオ2014』上映会 15:00-17:00  
監督: 柳川真 企画・制作: 情報学/情報学プロダクト (2014年、8/10 / http://www.31radio.com)  
～第2部～ 講演「伝える事の大切さ、変わる事の素晴らしさ」17:00-19:00  
大和田 新 氏 (フリーアナウンサー)

1955年神奈川生まれ。2015年3月、38年勤務  
したラジオ福島を定年退職。  
震災被災地支援活動には、300時間149にも及ぶ  
CM制作やテレビ出演を重ねる。  
現在、ラジオ福島にて『FM福島Mando』(木・金・土)  
は30分番組を制作中。

主催 (共催): 早稲田大学 教育学部複合文化学科/メディア・シティズンシップ研究所  
協賛: グローバル・コミュニケーションセンター 全学共通教育課  
お問い合わせ: 後藤雄介 (早稲田大学 教育学部 教員: chom@waseda.jp)

よい刺激を与えればよい反応が返ってくる ゼミ学生がとても積極的に関わってくれたのが最大の収穫でした

上映会を開催するに至った経緯や  
目的を教えてください。

後藤が担当する大学1年生向けの基礎ゼミで、今年度はラジオ番組(「ラジオフォーラム」www.rafjp.org/)を手がかりとして社会問題を考える設定にしたのがきっかけでした。さらに、ラジオの今日的役割を複合文化学科(www.dept.edu.waseda.ac.jp/culture/)全体で考える機会を持ちたいと思い、本映画の上映会と、3.11時に福島でラジオパーソナリティをされていたラジオ福島元アナウンサー・大和田新氏をお招きしての講演会の、二本立ての企画を立てるに至りました。

実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

本学メディア・シティズンシップ研究所(www.wismc.org/)の所長・伊藤守氏に共催で加わってもらいました。また、基礎ゼミで授業アシスタントをしてきていた、福島出身でアナウンサー志望の4年生が、企画段階から精力的に関わってくれました。

後援、協賛、協力などを得られた団体や個人はありましたでしょうか？

メディア・シティズンシップ研究所の伊藤所長を通じて、本学グローバルエデュケーションセンター全学共通

副専攻(www.waseda.jp/gec/utility/qa/minor/)の協賛を仰ぐことができました。

開催に必要な資金は、どのように捻出しましたでしょうか？

複合文化学科とメディア・シティズンシップ研究所の予算を使用しました。

どのようにして告知して、参加を促しましたか？

学内者が主たる対象だったので、学内の広報システムを活用しました。また、チラシを作成して配布に努めました。それ以外では、やはり映画公式サイトの上映情報が有益だったと思われます。

鑑賞後の感想や反応など、周りに何か変化はありましたでしょうか？

3.11の記憶を新たにすることができたと思います。また、映画上映を経て、ゼミ学生のラジオの役割に対する認識がさらに深まったように思えます。

今後、どのような活動を？

ゼミの成果は冊子にまとめ、番組を素材とさせていただいた「ラジオフォーラム」に送り届ける予定です。またこの機会に、講演者の大和田氏を通じて被災地との繋がりを築いてきたいと考えています。

上映会の感想を教えてください。

ゼミ学生がとても積極的に関わってくれたのが、今回の最大の収穫でした。よい刺激を与えればよい反応が返ってくる、ということを実感しました。

また、今回の企画は「被災地・被災時」のラジオの役割を見直すものでしたが、3.11以降、テレビの主要マスメディアが私たちが知りたい情報を必ずしも十分に提供していないと思われるなか、ラジオの役割は「日常時」においても重要性を増しているのではないかと考えました。

今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

3.11からまだ4年目にもかかわらず、人々の記憶は薄れかけているように思えます。人々の記憶を喚起するためにも、むしろ今後5年目以降にこうした上映会を持つことがより重要になってくるのではないのでしょうか。

ご担当者様: 早稲田大学教育学部 複合文化学科 後藤雄介 様

早稲田大学教育学部複合文化学科  
http://www.dept.edu.waseda.ac.jp/culture/  
「文化」「外国語」「情報」を3本柱に、さまざまな文化現象にたいして、複数性・複合性を重視し、多面的・多角的にアプローチを行なう。